

私の仕えるお方は
良家のご令嬢だ

才色兼備でしっかり者
そのお美しさにはいつも
見惚れてしまう…

もう…メイドなのに
私より起きるのが
遅いなんて…

少し気が強おくて
お厳しいところもあり
毎日叱られてばかりだ

申し訳ありません…

しっかりして

首にされたく
ないでしょ？

はい…

が頑張りますっ！

だけどお嬢様は私の
尊敬すべきお方…

分かれば
いいのよ

はいっ

そんなお嬢様には
私しか知らない
秘密がある…

夜二人きりになると
私にいけないお願いを
されるのだ…

お嬢様…

今夜もですか…？

普段の厳しい
お嬢様とは違い

しおらしく私を
求めるお姿は…

早く…

もう…
仕方ないお方ですね

あまりに可愛らしくて
私の心を掴んで
話さない…

う…
うるさい…
これは命令よ

初めは軽く
触れ合うだけ…

ふふ…また
イきましたね…?

でも気がついたら
お互いを求める想いが
止まらなくなつて…

うるさい…っ

黙って…
続けなさい…

お嬢様…その強がりも
愛おしいですよ…

そんな風にいうなら
もうやめますよ?

もっと…

私ももっとお嬢様を
めちやくちやにしたい…

ふふ…
聞こえないですよ…?

んっ…
やめないで…
もっと…

もっと…

あなたにめちやくちやに
されたい…

びしん。

では遠慮は
いたしません…

こうして体と
言葉両方で攻めて
あげると…

ふふ
感じてるお顔
…可愛いですよ？

んあ…
見ないでえ…

態度とは裏腹に
嬉しそうなお声で
可愛いらしい…

この魅力を知って
しまったらもう
抗うことなんてできない

体は正直
ですね…

いけないと分かっていても
どんどん止まらなく
なってしまう…

それ…
すき…

んあ…

あ…

あ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

んあ…

あなたは私だけの
ものなんだから…

もっとたくさん
気持ちよくして…

ふふ
もちろん
そのつもりですよ…

私だけが知るお嬢様の
いちばん可愛いお姿…
私だけのものです…

もっとたくさん
感じさせて…

お嬢様の可愛いところ
全部全部私に独り占め
させてくださいね…？









